

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

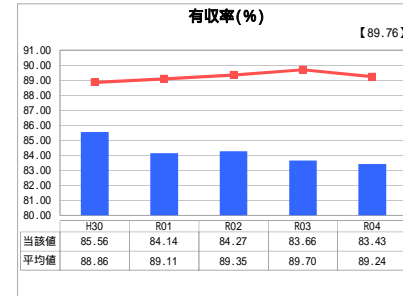
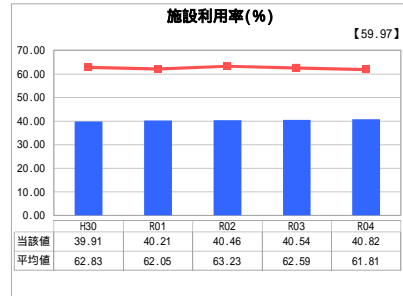
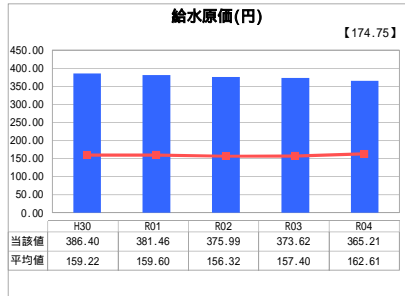
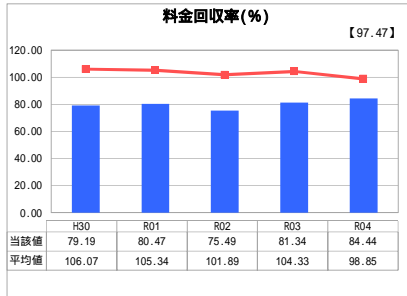
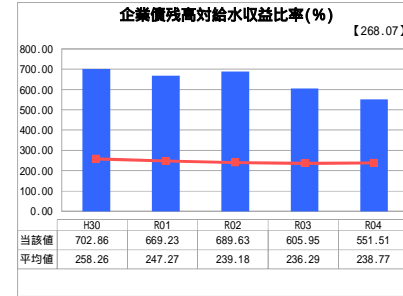
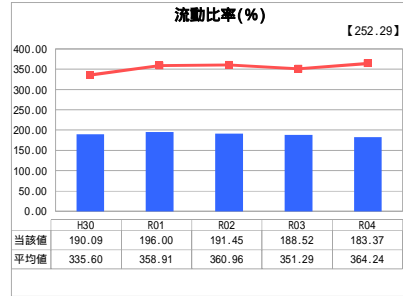
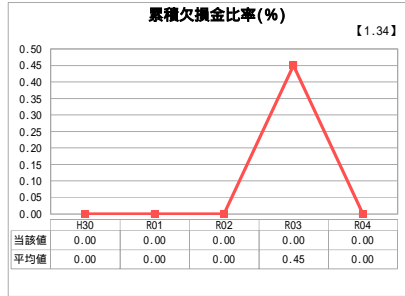
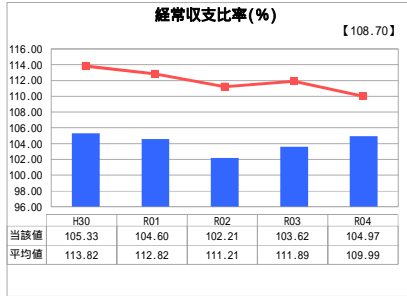
兵庫県 淡路広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	69.96	99.62	4,510	

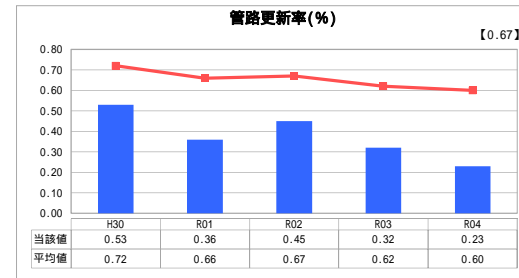
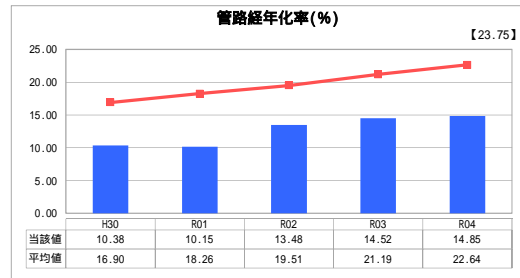
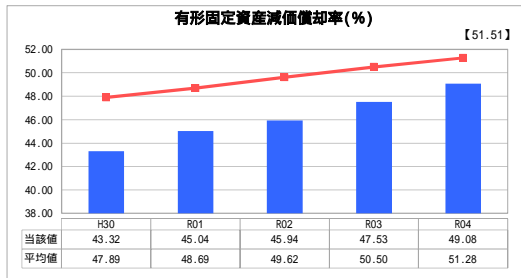
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
128,109	358.13	357.72

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
■ 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、水需要の回復に伴う給水収益の増加、また、支払利息等の減少により、前年度から上昇し、100%以上を維持しています。

企業債残高対給水収益比率も、給水収益が前年度に比し増加したことから、下落しています。

料金回収率も、給水収益が増加したこと、また、支払利息等が減少したことから、改善しています。

給水原価も、支払利息等が減少したことから、改善しています。

累積欠損金は発生しておらず0%です。

流動比率は、流動資産(現金預金等)の減少から、前年度に比べ下落しています。

施設利用率は、概ね横ばいで推移していますが、今後は、基幹浄水場のダウンサイジング等の実施により改善を図ります。

有収率は、漏水調査と管路更新に取り組んでいますが、近年、下落傾向にあります。今後は、重要管路の計画的更新や漏水調査の充実等により、改善に取り組めます。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体の平均値を下回っているものの、今後も上昇の見込みです。

管路経年化率は、類似団体の平均値を下回っているものの、今後も上昇の見込みです。

管路更新率は、地理的要因から管路延長が長いこと等が影響し、類似団体より下回っていますが、引き続き、国等の財源措置を活用しながら、基幹管路や漏水箇所の更新を優先的に進めます。

## 全体総括

淡路地域は水資源に乏しく、また山間部を多く有し高低差が大きい地形のため、施設数や管路延長が長く、類似団体と比較して資本費が高くなっているのが特徴です。

今後も、人口減等により水需要の減少が見込まれることから、施設の統廃合や長寿命化対策などで経営の効率化を図り、持続可能な水道事業経営に取り組んでいきます。